〖言語聴覚学科〗　　専門分野

授業科目名	運動性構音障害学概論Ⅰ	授業形態	講義	配当学期	1年（前期）
担当教員名	岡田　健太郎	単位数	1単位	時間数	30時間

授業概要 学習目標	〔授業概要〕 構音障害に関わる発声発語器官の解剖やそれにかかわる脳神経の働きを知る。 構音障害の種類やそれにかかわる脳神経部位、病名を知る。 〔学習目標〕 発声発語器官の部位・機能を知る。 構音障害の種類と関連する神経、病名を知る。

授業回数	授業内容
第　1　回	運動性構音障害とは　・コミュニケーションとディサースリアについて。
第　2　回	発声発語器官の構造　呼吸器　・発声のエネルギー源としての呼吸器系を知る。
第　3　回	発声発語器官の構造　喉頭　・音源としての喉頭の構造、機能を知る。
第　4　回	発声発語器官の構造　鼻咽腔・口腔構音　・共鳴器官としての鼻咽腔・口腔構音器官の構造・機能を知る。
第　5　回	発声発語器官の構造　口腔構音　・舌の発話時の機能等を知る。
第　6　回	障害構造　・ディサースリアの定義と障害構造について知る。
第　7　回	ディサースリアのタイプ分類　・ディサースリアの7つのタイプを知る
第　8　回	原因疾患・障害部位　・ディサースリアのの原因疾患と障害される部位について各タイプ分類と合わせて知る。
第　9　回	運動系の概要　・運動系とディサースリアについて。
第　10　回	ディサースリアの一般的教養１　・痙性ディサースリア、UUMNディサースリアについて。
第　11　回	ディサースリアの一般的教養２　・弛緩性ディサースリアについて。
第　12　回	ディサースリアの一般的教養３　・失調性ディサースリアについて
第　13　回	ディサースリアの一般的教養４　・運動低下性ディサースリアについて
第　14　回	ディサースリアの一般的教養５　・運動過多性ディサースリア、混合性ディサースリアについて
第　15　回	まとめ　今まで学んだ内容をふりかえって整理します

評価方法	定期テストで評価します。（100%）
教科書 参考図書	〔教科書〕ディサースリアの基礎と臨床　第1・2巻　インテルナ出版
	〔参考図書〕言語聴覚士のための運動障害性構音障害　医歯薬出版
履修上の留意点	骨・筋・神経などの名称、働きなどとても重要ですので、しっかり覚えるようにしてください・
メッセージ	臨床現場でディサースリアの患者さんに携わることは多くあります。講義内容はごく基礎の部分なので、それを踏まえて実習などでさらに知識を深めていただけたらと考えます。